



これって認知症？

まずは 受診から

あおば病院の宮本総院長に認
知症のことを聞いてみました

あおば病院で
物忘れ外来を受診してみた

1 機器を使った検査



血液、血圧、呼吸の検査や CT 検査
で、症状の原因を調べます

2 心理検査



文章や数字をオウム返して
言えるかなどをチェック

3 検査結果と医師の診察



最後に神経の状態を手の動きや反応で確認し、
各検査結果と合わせて診断します

指示した通り
紙を折って
机の上に置く



生活環境や本来の
性格、趣味や仕事
など、ご家族に患
者さんの背景を聞
いて、支援につな
げることを大事に
しています。

あおば病院
牧野 梢子
精神保健福祉士



動画で分かる
物忘れ外来
@宇城市公式
YouTube

認知症ケアパスで支援体制を知る



「認知症ケアパス」とは、
「認知症の人の状態に応じ
た適切なサービス提供の流
れ」のこと。認知症を発症
したときに「いつ、どこで、
どのような医療・介護など
のサービスを受けることが
できるのか」が一目で分か
るように、支援体制をまと
めています。

認知症の診断がついたと
しても、何もかも分からな
くなるわけではありません。
本人の状態にあった支援を
することで、できることは
たくさんあります。

こちらから
ダウンロード



認知症は症状

初めて来られる人を認知
症とは決めつけません。代
謝や免疫の疾患、脳腫瘍や
硬膜下血腫など、同じ症状
を持つ病気はたくさんある
んです。さまざまな検査で
その症状の原因となる病気
を探します。病気を見つけ
るためにも早めに受診して
ほしいですね。

症状は2種類

■ 中核症状
まずは記憶障害。昨日ど
こへ行ったなど誰でも忘れ
ることがありますが、認知
症は行ったという事実自体

を忘れてしまいます。

そして、現在の日付や近
所の道など場所の認識を忘
れてしまう見当識障害。最
終的には人の顔が分からな
くなって、物事を認識でき
なくなります。

行動心理症状

幻視や幻聴、焦燥感など。
初期は物忘れをすることが
分かって不安になったり、
物を取られたと思い込んだ
り。徐々に荒い言葉や手が
出る、ボタンを口に入れる
誤飲などが起こることも。

危険が分からない

物事を忘れると理解や判
断ができなくなります。身

あおば病院 総院長
宮本 英七 医師

の安全や危機管理ができな
いんです。気温もそう。「暑
い」という認識がなくなっ
て、冷房を使わず熱中症に。
火を使うときも消し忘れが
あったりして絶えず危険が
伴いますよね。1人暮らし
の方も多いので危険です。

診断で適切な対策を

診断を受けて、どの程
度、どの段階にあるのかを
知るのが重要。病院は病気
をつくる場所ではないん
です。物忘れを心配して受
診されても、認知症の段階
ではないから1年後の再受
診を促すこともあります。

でも、行動心理症状が出
たりすると家族が接し方に
悩みますよね。医療や介護
など適切な対策が大事。投
薬などで認知症の進行を抑
えられます。また、介護保
険を使った施設や訪問介護
の利用など、家庭への援助
もおすす。認知症の段階
を知り、それに応じたサー
ビスを知っておくことも必
要だと思います。

進行状況	正常なレベル	軽度認知障害 (MCI)	認知症初期	認知症中期	認知症後期
本人の様子	- 歳とともにの忘れが増えた - 知り合いや家族の名前がでなくなったなどの自覚がある - 新しいことを覚えることが苦手になってくる	- 物忘れの自覚がある - 何かのヒントがあれば思い出せる - 書類の確認や手続きが苦手になる - 簡単にできていたことを面倒くさがるようになる - 覚える事が苦手になる 「あれ」「それ」が多くなる - 人の名前が出にくくなる	- 約束ごとを忘れることがある - 探し物が多くなる - 何度か同じ話を繰り返す - お札で支払いをするので小銭が増えるようになる - 料理が固定化してくる - 外出がおっくうになる - 火の消し忘れ、水の止め忘れがある	- 季節にあった服を選べなくなる - 家の近くや慣れた場所でも迷う - 財布など盗られたと言いつける - 料理の手順がわからなくなる - 暴力行為、抑うつ状態など性格が変わったように感じる - 排泄の失敗が増える - 家族がわからなくなる - 住所がわからない	- 歩行が不安定になる - 指示通りに動作できなくなる - 発語が減る - 会話が難しくなる - 表情が乏しくなる - 食べ物がでない物を口に入れる - 記憶がこぼれおち、実際の年齢より若い頃の記憶で過ごしている
家族の心構え・しておきたいこと	- 地域のサロンや友人との交流など積極的に社会参加されるよう働きかける - 趣味活動が継続できるよう支援する - 将来のことを考え、認知症や介護に対する知識を学ぶ	- 認知症の方との接し方の基本やコツを学び理解する - 家族間で役割分担や今後認知症が進んだ時の対応について話を進める - 友人や近所の人に相談する - 困ったことや不安があれば抱え込まず、相談機関に気軽に相談する	- 介護量が増えるため、家族で抱え込まず、早めに介護保険申請し利用につけて検討する - 認知症カフェに本人と一緒に参加する - 本人の不安を受け止める - 外出の機会や趣味を今まで通り続ける	- 介護負担を感じるようになる。何でも相談できる相手を見つけよう - 家族と協力し、リフレッシュできる時間をつくりましょう	- 介護サービスを利用しながら、家族の負担が大きくなりすぎないようにしよう - 施設での生活を検討する場合は早めに施設見学をする - 最後の過ごし方や看取りについて、家族で話し合う
介護予防・介護保険サービス	ふれあいいきいきサロン・地区福祉会・通いの場 (100歳体操・脳いきいきサロン)・ 脳いきいき教室・脳いきいきサークル・かたろう会・元氣が出る学校・みな来るサークル				介護予防・日常生活支援総合事業 (認知症予防型通所サービス) 各種介護保険サービス (通所介護、訪問介護、小規模多機能型居宅介護など)
家族支援・生活支援	地域や職場、学校で認知症の正しい理解・認知症サポーター養成講座、認知症市民フォーラム 高齢者見守りネットワーク				認知症初期集中支援チーム 介護者のつどい・地域包括支援センター 地域福祉権利擁護事業・成年後見支援センター 成年後見制度・地域包括支援センター、成年後見支援センター
住まいの提供	ケアハウス サービス付き住宅 (サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム等)				介護を受けられる住宅 (認知症対応型グループホーム、特別養護老人ホーム等)